



定住外国人子ども奨学金 News Letter

※定住外国人子ども奨学金ニュースレターWeb版は個人情報などの都合上、内容を一部変更しています。

第七期目で初めて選考に携わりました。私はノンフィクションを書くジャーナリストですが、「差別」というセンシティブな問題を主テーマにしている関係もあって、子どもに取材する機会はほとんどありません。言い換えれば今回の面接は、普段、話す機会のない世代を相手に、「選ぶ」ために取材することでした。終始、軽い緊張を覚えながらのやり取りでしたが、私自身にとっても、本奨学金の意義を再確認する一つの契機になりました。

今回の応募は 12 人。うち 2 名は残念ながら面接の場には臨めず（うち一人はご家族に緊急事態が生じたとのことでした。今後、同様のケースが起きた場合の措置も検討が必要かと思えます）、結果的に 10 人からの選考になりました。上位 4 人を選び、そこから採用枠 3 人を確定する二段階方式でした。重箱の隅をつつく加点と減点作業を繰り返すのではと多少、不安でしたが、選考基準の点数化のおかげで最初の絞り込みは思いの外、スムーズでした。選考委員三人が選んだ上位 4 人が同じ人だったのもその的確さゆえでしょう。

とはいえ悩ましいことは多々ありました。既に指摘されていることですが、まずやはり応募者の日本語力が生む格差の問題です。申請書はもちろん、一発勝負で自分の思いを伝える力は、日本語を第一言語に育った人が有利です。新たに定住した人でも滞日年数が長い人ほどアピール力は強い。一方で滞日歴が浅い人ほど不利な状況が生まれてしまう。

今回の応募者にも、日々の授業について行くのが必死と推察される人が複数いました。「将来の目標」は評価基準の一つですが、日常で手一杯な中学三年生が、将来への具体的な目標を思い描けるかどうか。異言語の世界で「うつむく」姿勢を身に着けたのではと思う子もいました。まずもって三年間で卒業できるか、との最低条件を見極めるのは大前提ですが、反面、月 1 万 5000 円の援助が必要なのは前述したような人だとも思います。一定の滞日期間を下回る場合など、第一言語で面接する工夫は出来ないのでしょうか？日本語の力については、提出してもらっている成績簿である程度分かるわけですから。

懸念したのは本奨学金の意義への理解度です。「学業成績」が優れている一方で、本奨学金の目的への理解度が低いと思しき申請者もいて、判断に悩みました。我が身を振り返っても十代半ばの人に、「ロールモデルになる」や「コミュニティへの貢献」と言ってもピンとこない、あるいは思春期の気恥ずかしさが先に立つのかもしれませんが、申請、面接段階で本奨学金の意義をもう少し考えてもらう仕掛けが必要かとも思いました。

それにしても、できるなら一般公開したい面接でした。わずか十分程度のやり取りでしたが、申請書に刻み付けられた各人の状況と、面接会場での彼女らの言葉や表情、仕草の中に、この社会の現実と、支援制度の必要性が滲み出ていました。

(実行委員 N.I.)

奨学生からのメッセージ

今回は、新入生である1年生(7期生)には、①自己紹介②高校に進学してやりたいこと③将来の夢について、交流会当日に、2～3年生は選択式で①「高校〇年生になって頑張りたいこと」②「私は2年後、5年後、10年後、このようになっていたい！」③「奨学金の活動に参加して」④①～③以外で自分で決めたテーマから選択で、事前に作文を書いてもらいました。卒業生には、①高校を卒業して②今後の進路について③後輩へのメッセージについて書いてもらいました。

Iさん(7期生)

1.自己紹介

僕の名前はIです。国籍は日本であり、中国にルーツを持っています。昨年8月末に日本に帰ってきました。今は母と一緒に生活しています。今は日本語や国語に力を入れていて、楽しい高校生活を送っています。英語の力を伸ばしたいので、英語のコミュニケーションや勉強を楽しんでいます。また、学校の海外研修プログラムに参加し、もっと英語を上達したいです。

2.高校に進学してどのようなことがしたいですか。

国語に力を入れて、みんなとはとても仲良くして、楽しい高校生活を送りたいです。部活動は国語がもっと上達してから入ろうと思っています。今後、奨学金、KFCや別のボランティア活動に参加し、社会に貢献したいです。

3.将来の夢はなんですか。

僕は国公立大学の医学部に入りたいと思います。そして、世界中の医者たちと交流し、社会に貢献できる人になりたいです。また、英語の能力を伸ばしたいです。

Sさん(7期生)

1.自己紹介

私は今年の春、無事第一希望校のS高校に入学することができました。私は日本で生まれ、今までの15年間のほとんどを日本で過ごしてきました。なので、日本語についての問題はないと思っています。でも中国語と触れ合う機会があまりにも少ないため、聞き取ることはできても、単語の知識があまりにも少ないので、しゃべるのは片言で、読み書きは全くできません。

2.高校に進学してどのようなことがしたいですか。

もちろん勉強、友人関係に力を入れていきたいと思っています。部活動には入らず、生徒会執行部に入り、我がS高校を盛り上げ、ボランティア活動にも参加したいと思っています。

勉強、生徒会、ボランティアとを両立させつつ、運動、身体能力の面も欠かさぬよう、磨いていきたいと思っています。

母はボランティアで日本語教室で日本語のわからない外国人に日本語を教えています。なので私も時間が合うときは参加して、日本語を教える手伝いをしたいと思っています。

3.将来の夢はなんですか。

まずは、充実した高校生活を送り、大学に進学したいと思っています。私は生き物や、物事を観察することが好きなので、主に理系を得意にしています。

なので、できれば医療関係の仕事につけたらいいなと思っています。

Jさん (7 期生)**1.自己紹介**

私は J です。H 町に住んでいます。H 中学校を卒業した後、T 高校に入学しました。今は、バトミントン部に入っています。高校に入って、一番に気になったことは、授業のスケジュールです。中学校と比べて、1 時間長くなって、数学と国語の授業が多くなっています。数学と国語が苦手なので、不安です。これをきっかけにして、もっとその 2 教科を克服できるぐらい頑張りたいと思います。

趣味は、読書、ギターとパソコンです。最近 JAVA というプログラミング言語にはまっています。

2.高校に進学してどのようなことがしたいですか。

高校に進学して、おもに勉強を頑張りたいです。特に、苦手教科に時間をかけて学習したいと思います。今の一番の目標は、部活と勉強を両立して、テストでトップの順位を取ることです。

3.将来の夢はなんですか。

私の将来の夢は心臓外科医になって国際的に貢献することです。今迄チャンスがなかった人に希望を与えたいです。

Kさん (6 期生)**『建築の先輩』**

「タイムマシーン」時空を自由自在に旅できる機械です。私は、このマシーンがあれば、未来に行くのではなく、過去に戻りたいです。一年前や、十年前ではなく、七百年前に戻りたいのです。そして、メキシコで盛っていたアステカ文明の街を見たいです。この時代に盛えたこの文明に魅力を感じたのは、彼らの建築の技術が高いからです。今から七百年も前の時代に彼らは、人工島を築き上げそこで暮らしていたのです。その上に素晴らしいピラミッドや、上下水道、温泉があったと言われています。しかし、残念ながらそれらの建築物は全て、スペイン人の征服によって、崩されてしまいました。ピラミッドの岩は、教会を築くのに使用されました。なので、その街は、見れません。

メキシコシティにある文化人類科学博物館には、その街の模型があります。私は、この模型を初めて見たとき、「この街を実際に見たい。」と、思いました。あまりにも、きれいな街並みでした。人工島だとは思えないほど安定していたのです。また、アステカ文明には、さまざまな文化があります。文化に関心を持つ人も多くいますが、私はどちらかというと、建築に関心を持ちました。もちろん、文化もとても、素晴らしいと思います。日本の八百万の神と同じように、全てのものに神がいました。戦いの神、火の神、水の神など、数えきれないほど様々な神がいました。

将来私は、例え誰かや何かによって崩されたとしても、「見てみたい」と思ってもらえるような建築物を造れる建築家になりたいと思います。私は今、工学部を目指しています。より高いレベルの建築学を学ぶためにも、高校生活の残り二年、勉強頑張ります。

Nさん (6 期生)**『自分の将来～人生は自分をかけるチャンス！～』**

他人と過去は変えられない。自分と未来は変えられる。そして、私は自分の努力で自分の未来を広げたい。

私は今まで建築士になりたいと思っていたが、どちらかと言えば、人間と関わる仕事がすきで、それに、母も教師になってほしいと言ったこともあって、教師という道に進みたい、と今は思っている。

二年後の今、おそらくどこかの大学に入学し、教育学部に入っているだろう。新たな大学生活を送り、いろいろな人と知り合い、勉強に励んでいるだろう。

五年後に私は大学 4 年生になっているだろう。ある程度の知識を学ぶだけでなく、知識以外にも人間関係など、社会で必要とされる力もたくさん得たい。そして、今よりも物事を理性的に判断し、円満な人柄になっているよう努力したい。また、学校以外にも塾などでアルバイトをして、教師になるための勉強もあわせてやっていきたい。そのため、忙しいかもしれないが、充実した大学生活を送っているだろう。

十年後には社会に出てから 4 年目になる。子どものようなわがままもなくなるだろう。仕事面ではどこかの高校に勤めていて数学の先生になっていると思う。毎日子どもたちと話し、知識を教え、充実感を感じながら過ごしたい。一方、私生活では、深く話し合える人と付き合い、幸せな家庭を築いていく時期ではないかと思う。

ここまで、二年後、五年後、そして十年後の将来について考えてきた。本当に将来のことを想像すると、なんだかすごくわくわくする。私にはまだまだ可能性やチャンスがあると思う。人生は、自分とチャンスの組み合わせである。つまり、人生＝自分×チャンスと言える。自分がゼロならいくらチャンスがあっても、何一つ意味がないと思う。努力なく成功した人はいない。チャンスをつかめたのはそれまでの努力のおかげだと考えられる。人の命は一つしかない。人の人生も一度しかない。だからこそ、その一度しかない人生を満開の花のように咲かせたい。

Yさん (6 期生)

『新たな習慣を身に着ける』

「一ヶ月だけでも、試しに新聞読んでいい？」

母の了承を得て、「神戸新聞」を読み始めることにした。母は来日して十一年経つというのに、日本語学校に通ったのが最近のことなので、新聞は到底よめない。

新聞に中学三年生の時から興味を持っていたが、ニュースならテレビで十分だと決めつけていたため読んでこなかった。学校の勉強以外に文字としての日本語に触れる機会がほとんどないことに気が付いた。こんなに長く日本に居ながらも新聞を読んだことがない自分を恥ずかしく思った。

新聞が届いて一日目は字の小ささ、量に驚いた。全部を読もうと思うとどれだけの時間と労力が必要かで頭はいっぱいだった。新聞は通学前と帰宅後に読むことに決めた。

新聞は読んでみると興味深い記事が目飛び込んでくることが多い。STAP 細胞、大学受験制度の見直し、企業の新卒受入、社説の記事には必ず目を通して、暇があれば、他の記事もチェックしていく。この作業を続けて約一ヶ月になるが、政治、国際、経済の動きまで少しずつ理解できるようになったと思う。知らないことや目を背けていたことの多さに圧倒される日々だが、新たな発見が後を絶たないのも事実である。三月初めは震災に関する記事が多いかと思えば、すぐ増税の話がピックアップされる。三月は忙しいと思うばかりだった。

家では朝食、夕食の時にも新聞を読むので、かつては、スイッチがオフにされることのなかったテレビの出番が無くなった。そのかわり母に、新聞で読んだことで、母や自分が興味を持つ記事について説明するようになった。母は相槌を打ってくれたり、普段はかけている音楽を消したりするなど、母なりに配慮をしてくれる。普段はバラエティー番組を一緒に見て楽しんでいた妹でさえ、テレビをつけない環境に順応していたので、驚きである。妹は「今日はこのアニメが見たいから見ていい？」とたまに聞くが、お兄ちゃんが見ないので自分も見ないといった感じである。ある意味、無理をさせているようで、悪いと思うことはしばしばあったが、これもいつか妹のためになるだろうと思っている。

この結果、今までのテレビに偏りがちだった生活が、「読むこと」が中心になったように思う。新聞で読むスピードも少しではあるが速くなり、図書館で小説を借りるようになったりして、本と触れ合う機会も増えた。また、休みを利用して図書館で勉強したり、妹が好きな絵本を何冊か借りたりして、

本を読むことを素直に楽しんでいる。

妹は今、折り紙の本に夢中である。分からない箇所を教えていたら、三十種類以上折っていたので、なかなかたいしたものだと思う。これをきっかけに、図書館にまた行きたいというので、これが習慣になれば良いと思っている。

妹には、母や兄、自分と同じ苦勞をさせたくない。いつかは、自分は大学に進み、妹は母と二人きりになるに違いない。そうなったときに、安心して出ていけるよう、妹と母とともに成長していきたい。そのために今は「読むこと」を習慣にしようと思う。

〇さん (5 期生)

『高校三年生になって頑張りたいこと』

私は、今年の四月から高校三年生になります。あっという間に高校で最上級生になり、いろいろな不安と楽しみがあります。その不安とは、これから三年生になり勉強面でもっと難しいことを学んだり、もっと暗記することが多くなることで頭がいっぱい、いっぱいでした。最上級生なので学ぶことはとても難しいのは、把握しているつもりです。だが、私の頭でそれを理解できるかが一番不安でした。その反面たのしみは、クラス替えをするので新しいクラスになり、そして友達をもっと多く作れることがたのしみです。その他は、三年生から生物を学ぶので生物がどんな勉強内容かたのしみです。なぜなら、生物は看護専門学校の入試問題に出ることがあるので勉強内容もたのしみです。

三年生になって、不安も楽しみもある中、一番大事なことは自分の中で目標を立てて、その目標を達成できるように全力でがんばることです。

私の高校三年生になってからの目標は、私は看護師になりたいのでそのためにまずは専門学校に進学しなければなりません。なので、私は自分の行きたい専門学校に進学するためにがんばることが私のこれからの目標です。

看護専門学校は、多くの人が進学したいと思っています。私は、その中の一人です。専門学校は進学できる人数が限られているのでとても入るのは難しいです。私が行きたいと思っている専門学校は定員四十人に対し入試を受ける人数は二百人弱だったりします。私は、その率を見てとてもびっくりしました。でもそれが現実なので、私は今全力でがんばるしかありません。私は、がんばって専門学校に受かるように一番は入試に必要な科目を必死に勉強して学力をつけていきたいです。受験で必要な科目をがんばれば少しは自信をもてるようになります。私は、その自信を受験のときにいかせるようにしたいです。そして母を安心させて迷惑をかけないようにしたいです。

Sさん (5 期生)

『高校三年生になって頑張りたいこと』

今年四月から、高校三年生になります。二年生は海外研修がありましたので、とても素晴らしく、忘れられない一年になりました。海外研修から帰ってきて、年次担任の先生にもう三年生ゼロ学期だから、ちゃんと勉強しなさいとさんざん言われてきました。「ああ、もう受験生になっちゃった。」と最近よく思うようになりました。

受験生といえば、やってもやりきれない勉強がすぐ頭の中で浮んできます。僕はあまり勉強嫌いではないですが、好きでもありません。ただ、良い大学に入るために、就職するのに、やっておかなければならないことだと思っています。ところで、ちょうど今日、模試の結果が返ってきました。英語と数学はそこそこ良かったです。しかし、国語と日本史の結果はとても残念でした。毎回の小テストは精一杯頑張っていて、授業も聞いているのに、と思いながら、ショックを受けました。答案を見返すと、自分の日本語力が足りなさすぎることを痛感しました。日常的な会話はほぼ通じるようになりましたが、やはり文章になると、分からなくなってしまうところがたくさんあります。

これから、小テストにはもちろんちゃんと取り組んでいきたいと思います。この間、日本史の先生に相談してきました。僕は普通の日本人と違って、小学校から社会を通して日本史と触れ合う機会がないので、まずおおまかなことからしたほうが良いというアドバイスをいただきました。たしかに僕はたくさんの日本史の語彙を持っていますが、時代の流れに即して整理することがまだできていません。

僕は、六年生の妹に社会の教科書を借りて、勉強してみました。そこで、ようやく、時代の流れをつかめました。これから国語もこういう感じで、簡単なことから試みて、勉強していきたいと思います。

ちょうど今日、残念な模試の結果が返ってきたので、ちょっと落ち込んでいる僕です。でもできることはちゃんとやっていきたいと思います。三年生の最後まで、大学に入れるように、頑張っていきたいと思います。

Nさん (5期生)

『私は五年後、このようになりたい!』

私は今のままでいいと思うことが多いです。私は多くの人と同じく変化というものはあまり好きではないです。ですが、今のままだと、もしや人生に何の変化もなければ面白くないのではないかと思います。

今は家族や友達と一緒に毎日を過ごしているので楽です。いつかこの人たちとはお別れしなければいけない時間が来ることは間違いないです。この人たちはこの先何をしようかと考えていると思うのに、自分は今でも目標が何もないということはすごく怖いんです。

今の私は周りの流れに流されるばかりです。自分が本当にしたいことはしません。自分の意見をちゃんと口に出せません。自分というものをまだ持てていません。まだただの「1人の女の子」やただの「一人の高校生」であって個性のないレベルです。まだ自分というものを出すことが怖いです。

怖いですがそれはしなければならぬことです。自分は自分だから自分のために自分で決めなければならないことは、たくさんあります。この先なにをするかは決めなければならないですが、自分が本当に何をしたいかを知らなかったら出来ません。

私はどうしたら私になれるかはわかりません。毎日周りの人と一緒にすることをして、自分だけのものはほとんどないです。

しかし、この一年でならったことは一つです。「ゆっくり考えればいい」です。時間は自分のものとして使えます。周りの人を気にしないで自分の心を読みます。周りに反対されることがあっても、自分の人生を自分のものにすればいいと思います。

五年後、別にお金持ちになりたいわけではないです。有名になりたいわけではないです。別にお金は少なくとも、周りの人に自分の人生は無駄にしていると言われようが自分はそれでいいと思います。五年後、しあわせになりたいです。

今この世にはしあわせな人の数より、お金持ちや自分のキャリアで成功している人の数の方が多いです。その少数のしあわせな人の一人になりたいです。

Cさん (4期生)

1. 高校を卒業して

高校ではいっぱい思い出を作りました。その三年間は本当に楽しかったです。友達と仲良くして、先生たちもいつでも何でも話せます。

最初は高校早く卒業したいと思っていましたが、高校三年生になったときに、「もう最後の一年間か？早かったな？」と思いました。時間はそんなに早いと思わなかったです。アルバムの写真を見たとき

に、「とても楽しい高校生活だった。良かった。」と思って、ちょっと寂しくなりました。まだまだ高校生でいたいです。高校の先生たちにありがとうを言いたいです。特に担任の先生。お世話になりました。

2. 今後の進路について

四月に短期大学に入学します。その二年間でしっかり勉強したいです。英語と日本語をもっと勉強します。そして、スペイン語も勉強します。大学を卒業して、キャビンアテンダントになりたいです。

3. 後輩へのメッセージ

学校生活を楽しんで、友達と仲良くして、たくさんのいい思い出を作ってね。辛いときも疲れる時もあるけど諦めないでね。勉強頑張ろう！
いつかにまた会いましょう！

○さん (4 期生)

1. 卒業して

3年間あっという間でした。たくさんのいい思い出ができました。

K高校に入学した時、あまり友達もいなくて、生徒の身だしなみがあまり好きではありませんでした。はじめは悪い所しか見ていませんでしたが、だんだん一人一人の性格がわかりました。自分が思っていたのと違ってとても優しい人たちでした。K高校ではルールがほとんどないので、本当に服装やメイクはなんでも大丈夫です。大学とおなじです。初めはおかしいと思いましたが、今ではルールはない方がいいと思います。私が思ったのは、自由によって自分らしくいられると思います。

K高校で学んだ事はたくさんありました。私はシャイでしたが、学校の雰囲気や人達のおかげで、自分らしくいられることができました。

文化祭が一番楽しめたと思います。みんなで作ったり、歌ったりして、本当に楽しかったです。学校のステージが大きくて、歌う時どう使おうかと迷っていましたが、手拍子をしてくれたので楽しめました。ステージに立ったことで、自分も自信ができました。その後も歌ったり、クリスマス会の時や卒業の時も歌えました。卒業してさみしいですが、今まで学んだ事を心に残しながら、これからの事もどんどん進んでいきたいと思っています。

2. 今後の進路について

私はこの3年間すごく迷いました。人間は自分の考えをコロコロと変えます。私もそうでした。私がお母さんとちゃんと話ができしたのは高校3年のときでした。私は今まで語学と音楽で迷ってきました。親はもちろん音楽の事を反対していましたが、今回ちゃんと話ことができました。新しい目標を持って新しい家に引越しました。前の家は古くて、上に住んでいる人たちの声や夜中に赤ちゃんが泣いているのが聞こえたり、線路が手前があるので、寝られなかったり、家もよくありませんでした。だから、二人ともストレスで話があわなかったり、色々ありました。私も精神的なストレスでもう無理だと思った時もありました。でも学校の先生や奨学金の人たちに相談できてよかったです。

今はもう新しい家で住みやすい所に住んで親と話ができていますので、あとは自分です。今は経済的な理由で、大学に行けないので、先にお金を貯めてから行こうと思います。どうしても音楽の道に進みたいので、一歩ずつ自分の夢に近づけるよう頑張りたいと思います。

3. 後輩へのメッセージ

奨学金のみなさんは本当に優しいので、何でも相談できます。3年間の中で波があると思いますが、いつも応援してくれる人たちを思い出して頑張ってください。

Cさん (4 期生)

1. 高校を卒業して

1年生のとき印象に残っている行事は入学して間もないときの宿泊でした。まだお互いのこともしらずに一緒に寝て、ごはんを食べて、勉強して、歌も歌いました。その中で一番印象深いのは 30km ウォーキングでした。とてもしんどかったです。歩いて歩いて、ゴールが見えませんでした。周りにはたんぼと山ばかりでした。

2年生のとき印象に残ったのは学院祭と1か月の語学研修です。学院祭はクラスの男子が女装して、AKB48のダンスをおどりました。私たちは教室でKIC48 (Kobegakuin International Class) 劇場も作りました。とても楽しかったです。語学研修はオーストラリアに行きました。1か月海外で生活すると、自分の性格も前より明るくなったみたいです。海外で知らない人と普通に会話したり、あいさつしたりしました。オーストラリアに行ったから、大学は海外に行きたいと思って、今の専門学校に行くこと決めました。

高校3年生の1年間は3年間で一番時間が過ぎるのが早かったです。知らないうちに全部の行事が終わって、知らないうちに受験が終わって、知らないうちに、卒業式も終わりました。ほんとうに実感がなかったです。

2. 今後の進路について

今後は、一年間大阪の専門学校で必死に英語を勉強して、来年からアメリカに留学に行きたいです。具体的にアメリカで何を勉強するのかはまだ決まっています。

3. 後輩へのメッセージ

高校3年間というのはほんとに時間の過ぎるのが早いので、すべきことを一所懸命やって、楽しむときはおもいっきり楽しんでほしいです。高校の友達も大事にしてください。

～今後の予定～

2014年 5月18日(日) 神戸まつり出展

2014年 6月 1日(日) 灘チャレンジ出展

2014年 7月18日(金) 丸五ナイト屋台出展

2014年 10月19日(日) 第6回 KOBE カンタービレコンサート 於:ピフレホール

奨学金の Web ページが新しくなりました！

プロの Web デザイナーのご協力により、奨学金の Web ページが新しくなりました！
 大変見やすく、内容も充実し、グレードアップしました。ぜひ一度、ご覧ください。

外国にルーツを持ち、兵庫県に住む子どもの、高校進学を支援する奨学金です

定住外国人子ども奨学金

●お問い合わせ ●住所・アクセス ●サイトマップ

定住外国人
子ども奨学金とは？

活動のご紹介

卒業生
インタビュー

ニュースレター
web 版

ご支援
くださる方へ

奨学金を希望する方へ

- 장학금에 대해서
- 关于奖学金
- Vé học bổng
- Para solicitar beca
- Bolsas de estudio
- About the scholarship



勉強したい、この国で！

…日本という外国にいる、外国人の子ども…

私たちは、外国にルーツを持ち、兵庫県に住む
 経済的に困難な環境にある子どもたちの
 高校進学を支援しています。

今年度も引き続き、募金箱設置にご協力いただきありがとうございます！

(順不同、2014 年 5 月 9 日現在)

百済、すーぶ房くだら(花隈店)、すーぶ房くだら(湊川店)、(財)神戸国際協力交流センター、神戸映画資料館、ほっとすて
 ーしょん、おかしの家、神戸市教職員組合、神戸市教育会館、兵庫県学校厚生会神戸支部、広東料理悠苑、甲南女子大学
 多文化コミュニケーション学科、タンカフェ、神戸 YWCA、ベトナム料理メコン、インド料理チャルテ・チャルテ、南インドカフ
 ェダイニング チャルテチャルテ、チャオサイゴン、ブラジリアーノ、焼き肉みなみ

今後も引き続き、募金箱設置をお願いいただける団体・店舗を募集しております！

皆様のご協力を宜しくお願いいたします。

奨学資金の寄付を受付中です

ご寄付いただける方は、以下のゆうちょ銀行の口座までお願いいたします。

口座名義：定住外国人子ども奨学金実行委員会

口座番号：

(ゆうちょからの振込の場合) 1 4 3 7 0 8 7 4 5 4 7 7 1

(他行からの振込の場合) 店番 四三八 普通預金 8 7 4 5 4 7 7

問い合わせ先 定住外国人子ども奨学金実行委員会

〒653-0038 神戸市長田区若松町 4-4-10 アスタクエスタ北棟 502

NPO 法人 神戸定住外国人支援センター (KFC) 気付

TEL078-612-2402 FAX078-612-3052

E-mail kfc@social-b.net Web <http://www.social-b.net/kfc/scholarship/>

